



# 飽波神社

志太平最古の社  
延喜式内





# はじめに

神社という場所には、癒しや文化、人々の繋がりがあると私は思います。

昔から神社は、私たちの身近な場所にありました。皆様も、初詣や七五三、合格祈願など何か願いを持って神様の元へお祈りしに行った経験が一度はあると思います。そのため、神社は神様の祀られている場所でありながらも、人々の心の拠り所とされているのです。

今回ご紹介する飽波神社は、私の祖父と父が神主として仕えている神社です。そのため、神社という場所は私にとって幼い頃からとても身近な存在でした。たくさん自然や木々に囲まれ、神秘的でどこか癒しを与えられる場所です。

一七〇〇年以上前から藤枝市に佇み人々の拠り所として構えてきた飽波神社<sup>あくなみじんじや</sup>。その魅力や歴史を、みなさまにご紹介したいと思います。

志太平最古の社

延喜式内

# 飽波神社



水が湧き出ている山裾の小石の再現



藤枝大祭りの長唄による地踊りの様子



鮑波神社は、第十六代仁徳天皇六年（西暦三二八年）戊寅（つちのえとら）十月、鮑波郷（旧藤枝一帯）の鎮護の神として創建された、一七〇〇年以上の歴史を有する志太平野で最も古い神社です。

当時、境内の山裾の小石の周りから清らかな水がこんこんと湧き出ており、諸病に靈験があつたと伝えられ、人々に命の水を恵み癒していました。また、鮑波神社の近くを流れる瀬戸川の水害からも護ってくださることから、湧波（わくなみ）神社 川関大明神とも称され崇敬を集めてきました。

近年では、あくなみさんと呼ばれ、藤枝のみならず多くの人々に親しまれています。また、三年に一度行われる「藤枝大祭り」では、長唄による地踊りが奉納され、大変な賑わいをみせます。

## 御祭神

智恵・医薬の神 少彦名命

御祭神は、「少彦名命（すくなひこなのみこと）」と申し上げ、知恵の神様であり、この国を開き、産業を奨め、医薬を教え、様々な知恵を授けて下さるなど、我々に幸福をもたらして下さる神様です。

## 相殿神

瀬織津姫命  
せおりつひめのみこと

祓戸四神の一神、水の神

蛭子命  
ひるこのみこと

えびす神

天忍穂耳命  
あめのおしほみみのみこと

天照大御神の御子神



少彦名命



瀬織津姫命

## 延喜式内とは

平安時代初期、延喜五年（西暦905年）～延喜五年（西暦927年）の間にまとめられた「延喜式」の内、神名帳（巻九・巻十）に記載されている全国3,132の神社のことです。

千年以上前から既に朝廷より認められた由緒ある神社であり、志太地区では焼津市の焼津神社・那閉神社、藤枝市岡部町の神社と鮑波神社の四社のみです。ちなみに現在、全国の神社は78,863社、静岡には2,823社、志太地区には217社の神社が祀られています。





藤枝大祭り

## 02

### 江戸時代から続く、 伝統と歴史

藤枝大祭りは、江戸時代、田中城の鬼門を守る青山八幡宮の大祭りに、藤枝宿の屋台が神輿渡御の行列に付き添ったのが始まりです。明治四年（1871）の廃藩置県で田中藩が解体され、藤枝宿の総社飽波神社の大祭りに屋台の曳き回しが移行されました。

飽波神社大祭りは、寅・巳・申・亥の年に施行されます。現在ではこの大祭りを「藤枝大祭り」と読んでいます。

明治時代までは、江戸時代でもっとも発展した「三層高欄型山車」と、唐破風屋根に踊り舞台を備える「踊り屋台」などが結合する独自の山車屋台「でした。これが、文明開化の象徴でもある電線と電話線にかかってしまったため、やむなく踊り屋台（幕引き屋台）のみの形態に変わりました。当時中央の長唄界で活躍していた左車出身の六世芳村伊十郎（長唄家元）を迎え、大正五年（1916）に、現在のような長唄による地踊り披露という形態が整えられました。

## 祭典の見どころ

長唄は歌舞伎の演奏音楽ですが、勧進帳など劇に伴うもの、さらに吾妻八景など、舞台を離れての素唄などがあります。藤枝大祭りでは、長唄・三味線・囃子方というフルメンバーによる演奏で、地踊り(手踊り)を披露します。そして、どの地区も必ず三曲は長唄による地踊りが披露できます。

これは、「長唄による地踊りの祭礼」の全国調査で、長唄・三味線・囃子方というフルメンバーでの地踊りの形態を持つ祭礼は、藤枝大祭りが質や規模が日本一だということが判りました。長唄で地踊りを披露する形態は、江戸時代に盛んでしたが、現在では東海道の旧宿場道、藤枝・島田・掛川にのみ、継承されています。



◆ 長唄による地踊りの様子

## 屋台について

屋台の操作は、屋根係り、梶子係りなどが中心となって行い、屋根の先頭中央に立つ鬼瓦と呼ぶリーダーと屋台の前に立ち梶子の振り方を指示する梶子係り長どが息を合わせ一体となって操作を指揮します。

木く長い梶子棒を屋台の前に取り付け操作する方法は、東海道では藤枝市が唯一です。屋台運行は、梶子棒の微妙な操作が見ものになっています。また、屋台の回転披露は、本通りの交差点で行われ、それぞれの屋台の迫力ある操作を見ることができます。屋台を回転させる方法として、梶子棒のほか砲丸を用いた操作もあり、神社の境内や狭い交差点などで行われます。

# 神社の基本解説

知っておきたい5つのこと

神社のまつわることや知っておきたいポイント、普段とは違う気持ちでお参りできるような知識をご紹介します。

## 01 鳥居

鳥居とは、神様が祀られている神聖な場所と人々が暮らす場所との境界を示すものです。鳥居の中央は神様が通る道とされており、鳥居をくぐるときは、左側を歩き進みます。また、神様の祀られた神聖な場所に入ることになるので一礼をしてくぐります。



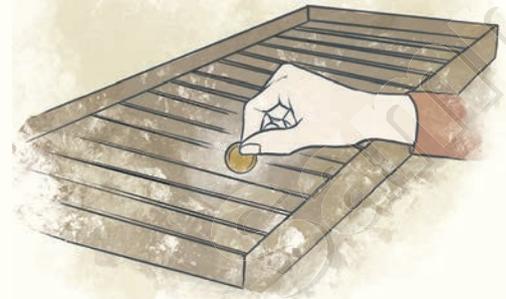
## 02 狛犬



狛犬(こまいぬ)は、神社社殿の内側または外側に置かれ、勇ましい表情でじっと佇み邪気をはらい、神様を守護するものとして置かれています。社殿に向かって右側の狛犬は、口を開けている「阿(あ)形」、左側は、口を閉じている「吡(うん)形」が構えています。この2体が対になり阿吡(あうん)になっているのです。

### 03 お賽銭

お賽銭とは、神様からの恩恵や日々の感謝を伝えるためにお供えする物です。5円にはご縁がある、15円には十分ご縁があるなど意味があるとされていますが、お賽銭の金額には決まりはなく、自分自身の気持ちを込めてお参りすることが大切です。また、お賽銭を賽銭箱に入れるときは、投げ入れるのではなくそっと入れます。



### 参拝 04

まず、鳥居を一礼してぐり、手水舎（てみずしゃ）の水で心身を清めてから参道を通り社殿に向かいます。賽銭箱の前に立ったら気持ちを込めてお賽銭を賽銭箱にそっと入れ、二拝二拍手一拝の作法で参拝を行います。

### 05 授与品

神社で授与されている御守りや、御札を授与品といいます。授与品は神様の身代わりとされており、御守りは、厄除けや福を招くための物で、常に身につけることでご利益を得ることができます。御札も同様で、神棚に納め家庭や仕事の幸せを祈願する物です。授与品は、1年が過ぎたらまた新しい物に取り替え、古い授与品は1年間お守りしてくださったことに感謝し、神社に納めます。





04

## 飽波神社の御守りを ご紹介！

飽波神社には、おみくじなどの他に、五〇種類もの御守りが授与されています。その中でも、神社への参拝が初めての方にもおすすめできる御守り六種類をご紹介します。



## 御守り紹介



### 肌守

全ての御守の基になっている御守。昔はこの肌守を身につけるのが一般的でした。



### 健康御守

毎日を健康に過ごせることを祈願する御守。



### 交通安全御守

車やバッグにつけたり安全に外出したい方におすすめです。



### 合格御守

受験生や試験を控えている方にご利益があるように祈願する御守。



### 安産御守

これから出産を控えている方が何事もなく出産できるように祈願する御守。



### サッカー御守

サッカーで有名な藤枝ならではの御守。サッカーをやっている方におすすめです。

## 御守りの他にも



## 御朱印

通常の御朱印の他に、ご祭神の少彦名命と瀬織津姫命に因んだ御朱印もございます。

他にもおみくじや、絵馬などさまざまなものがあります。



延喜式内

 飽波神社

所在地 | 〒426-0025  
静岡県藤枝市藤枝5丁目15-36

T E L | 054-643-2915  
F A X |

